

占いに興味を持つ心理 非科学に惑わされる人々

福島 淳 イラスト・ 福島麻衣子

占いと言えば、非科学領域のはずだが、あたかも科学的な分析の上に成立っていると錯覚されているものもある。

その一例が血液型性格占いだ。実はこの学がクセ者である。



なぜか、この世の中は非科学的な考え方と科学的な考え方が、お互いに上手く矛盾を感じさせずに存在している。占いに限らず、手相、おみくじ、風習、虫の知らせから超自然現象、果ては宗教まで、まさしくこの世の中には、非科学がいっぱい。

さて、非科学を見てみると、どうにも納得のいかない事によく出くわす。その一例として、血液型占いで性格を解釈する人々について考えてみたい。おそらく、彼等の間では、私は、型だから××な性格、といったふうな会話がなされていると思う。では、そこで働いている心理的なメカニズムは何だろうか？

まず第一に、血液型占いに示されている性格傾向の分析は、誰にでも当てハマりそうな特徴が多いという事が言える。例えば、周囲に気を使うタイプとか、保守的な所がある、と書かれていれば、大抵の人は、そういう面もあるなあと、思ってしまうだろう。つまり、その内容は幾つもの解釈にとれるため、後から自分で当てハマる部分を探し出すというメカニズムが働くのである。ところで困ってしまうのは、本人に、型の特徴は××な性格、という先入観が出来上がってしまった場合だ。自分は××という性格……と本人の注意が片寄り、自分の持っている本来の姿が見えなくなってしまうのだ。つまり、本人に都合の良い解釈をして、自分自身を見ようとしなくなるのである。第3の問題には、刷込み効果

がある、と思いついてしまつと、それが人を解釈する基準になってしまい、だから、あの人は××なんだ、とか、自分はこれが普通なんだ、といった偏見に陥るのだ。これらは、型は自分と合うけど、型は合わない、等といったグループ化を生み、やがて好き嫌いが血液型差別へと進む。こうして、自分の仮説に合う結果を答えにする行為を、知らず知らずのうちにしてしまうのである。

このようなメカニズムでの見方は非常に歪んだ結論を生むのだが、当の本人は、私は正しく見ている、と錯覚している場合が多い。しかも他人からそれを指摘されても、分かつたようで分かつていないという訂正困難な事態に陥っていたりする。まして井戸端会議で、そう思わない？ 私もそう思う、などと会話がされようものなら、その瞬間それが裏付けとなり真実と化してしまうのだ。

本来、ある因子で対象を分類するという事は、科学的な行為であり、普遍的で客観的な分類基準が必要であるはずだ。当然、自説に都合の良いように勝手にコトコト基準を変えてはいけない。さて、血液型と性格との関連について研究する某人物は、一流マラソン選手にはA型が多く、三段跳び選手にはO型が多い。理由はA型がマゾソニックな耐久性に富み、O型が一発勝負師的な気質と集中力を備えているため、と解釈していた。しかし彼は一流の基準について全く触れていないため、彼にとつては、どのようにも統計学的に実証されてしまう事になる。彼



の死後、その後継者はO型の瀬古選手が登場した際、近年のスピード化によって2053の距離感が変化し、短期集中のO型が抜きん出てきたと分析を変えた。新幹線ならいざ知らず、人間の走るスピードがその距離感を変えるほど変化したとも言つのだらうか。結局、ここで露呈したのは、不都合な現象が出現すると、短期間に判断が変わってしまうという、その基準の持つ曖昧さだ。研究している本人は、理屈の通った科学としてその論理を説明しているつもりだろうが、これを非科学的と見られても仕方がないだらう。

ところで先にも述べたが、自分に都合の良い解釈をする事が占いのメカニズムなのでだから非科学なのだ！血液型占いを持ち出す人の殆どは、必ず自分に都合の良い場面のだけ、それを持ち出してくる傾向にある。そのため、物事には必ず存在する裏表の両面までは解釈していない。例えば、保守的なタイプと言う表現を表面と解釈すると、裏面は、自分を守る事が一番と考え、損得勘定から、困っている人がいても見て見ぬフリをするタイプと言えなくはない。悪意にとれば、自分さえ良ければいいとなるわけだが、得てして自分自身の分析からは、都合の良い面だけ解釈して、悪い面があると、ここは少し違うと除外してしまうものだ。その一方、他人の血液型性格分析にマイナス表現を見ると、そのプラス面の解釈はしなかつたりするのである。更に大きな視点から、血液型を見てみ

よう。ある学者が、各血液型のアンケート調査をしたところ、イメージが良かったのは1番がO型、2番がA型であった。血液型による人口比はA:O:B:A=B=4:3:2:1であるから、O型とA型で人口の7割が占めている事になる。これは、見方によっては小多数差別につながるのではないだらうか？人知れず、一部の人々に苦痛を与えているかもしれない。セクハラならぬブラハラ(Blood type harassment)である。

さて、人がある考え方を信じると予測と結果が添う様に、無意識に選択する現象が起こる。つまり占いを信じている人には、当たっていると思った部分のみ記憶に残し、ハズれた所は無視するという選択的記憶が生じるのだ。これが、一部の人に定着していく理由である。もし、今これを読んでいるあなたが血液型占いを信じていても、別に、全てを信じているわけではないと思つたらう。それが、自分に都合の良い解釈を繰り返してきたゆえんなのだが、悲しいかな人間は、自分の持つ醜い部分を正面から見つめる勇気がない。こういった話は、これまで何度も述べてきているのだが、毎回日常生活のあちこちに潜む逃げ場所を掘り下げていくと、自分を見つめる行為は恐ろしく難しいものだと思つづく感じる。

最後に、血液型占いに限らず他の非科学の存在も含め、あくまで遊びとして楽しむ範囲に於いては人を傷つけることはないだらう。